



# 名寄市立大学の窓から知への誘い

## 「老化および長寿とどう向き合うか」

保健福祉学部社会福祉学科 准教授 黄京性（ひょう ぎやうせい）

vol. 11

終戦直後である1947年の日本人の平均寿命を見ると、男性が50歳弱、女性が54歳程度であったことや60歳を祝う「還暦」からも象徴されるように、人間として60年間を生きていることがいかに難しいことであつたかよくわかります。それが現代の日本では、誰もが100歳を夢見る時代になってきていて、世界一長寿国の座を20年以上も堅持しています。実に素晴らしいことでもあり、喜ばしいことでもあります。

しかしながらこの超長寿国日本をどう支えていくかが大きな課題になっていきます。1973年から10年間も高齢者の医療費負担をゼロにしていた高齢者医療制度は夢のような遠い過去のこととなり、今となっては増大する費用で国も自治体も高齢者本人も苦しくなっ

ています。これに加えて、平均寿命の延びと比例して何らかの介護を必要とする高齢者数の増大は、家族介護者の負担を社会的介護で軽減する趣旨で機能している介護保険制度に要する費用の増大も招いています。このように日本の社会保障費の7割が高齢者の生活、医療、介護を支えるための高齢者関連の支出になっているのが現状ですが、これらのすべては老後を支えるために欠かせないものであることは言うまでもありません。

話は変わりますが、人間において老いていくこと、いわゆる「老化」は、すべての生き物と同様必然的に生じ、そして逆らうことや後戻りしない進行性のものでもあります。これは人間の身体のすべての機能が低下し、有害物質の蓄積によ

って死を迎えるようになっていくからです。こうした宿命的な状況は、同一種において一定、遺伝的に決定されているといえます。一般的に疾病には、一時的で早い段階で治療および回復が可能な急性疾病と、長期的で治療や回復に時間がかかったり、完治が困難な慢性的な疾病があります。老化により急性疾病は減少していきますが、逆に慢性疾病は増加するといわれています。加齢とともに喘息、高血圧、糖尿病、心臓病、関節炎のように、長期間の治療と注意を要する疾病が多くなります。

超高齢社会になった今の日本において、全体医療費の中で高齢者の占める割合が非常に高くなっています。これは治療や入院期間の長さが関係しているからであります。ここで考える

ことは、老化は身体的な変化だけではなく心理的变化ももたらすので、より幅広く多次元で理解することが必要であり、高齢者の疾病を含めた健康問題に関して、単に個人の身体的な側面だけにその原因を探るのではなく、社会的および環境的な周辺要因も含めた包括的なアプローチがとても重要であることを家族および周りの方々が認識しておかなければなりません。

個人的な考えですが、価値ある長寿のためには高齢者本人の加齢および老化への肯定的そして生産的ともいえる前向きな姿勢が、人生の質を決める最も重要な要素になるのではないかと、思う次第です。  
(次号に続く)



### 図書館的話題・研究会

「看護と全人教育」。これは今夏、本学を会場に開催した日本看護図書館協会の研究会テーマです。本学図書館も、看護学科を持つ大学として協会に参加し、各地で開催する研究会で学んでいます。

「豊かな人間性を備えた医療人育成のため、看護図書館ができることは何か」について講演や事例報告を行いました。

大学図書館は従来の資料蓄積・提供の機能に加え、様々な学習支援や積極的な情報発信が求められる時代になっています。更に、ケアの現場に就く学生が多い本学では、専門書以外の文学作品・闘病記の中で、より多くの人生を追体験するなど、人間理解の視点での図書館活動も重要です。全人教育の一端を担う図書館としてより一層の努力が必要だと感じた研究会でした。

### 大学図書館にはこんな図書があります

～高齢社会に関する図書～

『老い衰えゆくことの発見』

天田城介 角川書店

『大介護時代を生きる』

樋口恵子 中央法規

『ケアの社会学 当事者主権の福祉社会へ』

上野千鶴子 太田出版

●詳しい利用案内は本学図書館のホームページをご覧ください。(大学ホームページ>附属機関>図書館)

●問い合わせ：本館 ☎01654②4199[内線3114]

分館 ☎01654②4199[内線2200]



直通  
電話